

学位記授与式祝辞

2020年3月23日
東京大学大学院 数理科学研究科
専攻長 古田幹雄

本日修士課程、博士課程の学位を取得される皆さん、ご修了おめでとうございます。この機会に、皆さんが今日に至るまでたどってきたであろうことを振り返り、皆さんが今立っておられる場所を改めて確かめさせてください。

皆さんは修士課程に進まれる前に、すでに学部ではいくつものことを学ばれてきました。数学とはどんな分野があり何を行う学問であるかという知識、数学を自ら操り抽象的な現象を解析する技能、そして、数学における価値観として根底からものを考える大切さをすでにご存じであったと思います。そして、学部卒業後も、数学をさらに追及し、研究ということをしてみたい、という意味をもつ方々が、大学院への進学を選ばれたのだと思います。勉強から研究への移行は、修士課程の方々にとっての主要な課題です。

皆さんは学部時代に既存の数学を我が身に吸収する経験を積み上げ、そのとき目の当たりにした数学に魅力を感じておられたことと思います。しかし一方、大学院において、果たしてどんな道で、自分の中から新しい数学を生み出すことができるようになるのか。その見当がつかず、不安と期待のないまぜになった気持ちで修士に進学した方も多かったかと想像します。先輩たちを見ると、様々な人がいるが、ほとんどの先輩はなぜかいつのまにか修士論文を書いている。だからきっと自分も当然そうなるに決まっている、とあっけらかんと思える方もおられれば、逆に、自分にはその突破を遂げることは無理かもしれない、と思い詰めた気持ちの方もおられたかと思います。おそらくはその両者の間をゆれる気持ちだった方も多いでしょう。

修士課程においても博士課程においても、指導教員とのやり取りは、大学での大切な時間であったと思います。皆さんが指導教員とともにやってきたセミナーは、各教員と各学生の組み合わせに応じて、多様な形態であったかと思います。しかしどのセミナーも「目の前の数学的対象を丁寧につぶさに見ること」をひとつずつ積み上げる過程である点は共通していたはずです。見えてくるものが点から線へ、線から面へと広がり、道とも風景ともつかぬものが形となってくる。確かめたり例を作ったり調べたりする行為が日常的な身振りとなる。そして見ることと行為することと想像することとが、螺旋を描きながら「研究」としか言いようのない焦点を結ぶ。そんなことがあったのではないのでしょうか。このとき皆さんに見えているのは学部時代の「数学」の、いわば生身の姿と言えるかもしれません。

修士論文・博士論文という「作品」をまとめるためには、多大な労力を要されたことでしょう。「論文の書き方」は多くの作法の集積からなります。それまでの勉学の過程で、多数の諸論文を読んで身についたものや、セミナーで指導教員や先輩たちや同級生と行った議論の経験で叩き込まれたことも、きっとそこには含まれています。修士論文・博士論文作成は、科学者集団が、科学を歴史的に作り上げてきた方法を身をもって知ることの一端でもあります。

今皆さんは、強靱な力を身に着けておられます。根底から考えるために、必要に応じて新しい枠組みを自ら作る力です。そして、この力の行使のために、先人たちが築いてきた数学から、その富と豊かさをくみ上げる通路をも皆さんはきちんと持つておられます。これから皆さんがどのような道に進まれるにせよ、皆さんの持つこの力の揺ぎ無き根本は失われることはありません。

また博士課程に進まれた方は、第一に修士課程で行った研究を踏まえ、さらに深く研究を行われたことと思いますが、皆さんの多くにとって、博士課程のひとつの大きな課題は、指導教員からの独立であったと想像します。自分でテーマを選び、そのテーマに関しては指導教員と対等の立場にたち、指導教員から独立した自分の研究を行い、博士論文を完成させること。

これらの過程で、同世代や上の世代の人たちと共同研究をする経験をされた方も多いかもしれません。逆説的に聞こえるかもしれませんが、独立すればするほど、他者とのより自由な協力が可能であるようだというのが私の経験からの印象です。まだそのような経験をあまりされていない方はきっとこれからあるかと思います。その準備が皆さんにはきっとできています。

以上で振り返ってきたような場所におそらく立っておられる皆さんに、これから先のことについて、二つだけ、少しばかり歳を経た者からの個人的な願いを述べさせていただきます。

第一に、皆さんが身に着けた専門性は、他の専門性と協力しあうことによって初めて十全に発揮されるものだと思います。どうかさらに広い心をもってお進みくださることをお祈りいたします。

第二に、どうか、まっすぐものを見る目を忘れないでいてくださればと強く思います。それは人によっては「夢」といってもいいかもしれないし、あるいは人によっては数学を楽しみと感じる「初心」といっていいものかもしれません。

決して明るくはないかもしれない時代に皆さんが確固としてご自分の足で立つために。

皆さんの将来が素晴らしいものでありますように。